

図書館に関する話題 第8回

四庫全書電子版と四庫全書存目叢書補編

人文学部教授 植木 久行



平成 20 年から始まった附属図書館文系図書整備 5 か年計画のもとに、中国関係図書として、高額な文淵閣四庫全書電子版 (CD-ROM) と『四庫全書存目叢書補編』(全 100 冊) が購入された。前者は参考図書室の CD-ROM 検索コーナーで利用でき、後者は旧書庫 2 層に置かれ、付された目録索引 (1 冊) を利用して閲覧・借用できる。この紙面を借りて、購入された 2 種の価値の一端に触れて、利用の促進を図りたい。

四庫全書とは、清の乾隆帝が当代屈指の学者を結集し、古今の重要な書籍を全国から集め、すでに散佚した書籍も明代の『永樂大典』を利用して復元し、考証・校勘を行った上で、経・史・子・集の四部に分類・筆写した、空前の一大叢書である。収録された書籍は 3,400 余種、79,000 余巻、36,000 冊に達し、ほぼ 10 年の歳月をかけ、乾隆 46 年 (1781)、最初の一部が完成した後、合計 7 部が作成され、文淵閣 (北京紫禁城、現在、台湾故宮博物院所蔵) 等、7 か所に分置された。(現在、2 部が完存)

1986 年、文淵閣本四庫全書の影印 1,500 冊が、台湾商務印書館から刊行された。附属図書館には、残念ながらこの冊子体の文淵閣本は所蔵されていない。近年、中国では漢籍の電子化が急速に進み、

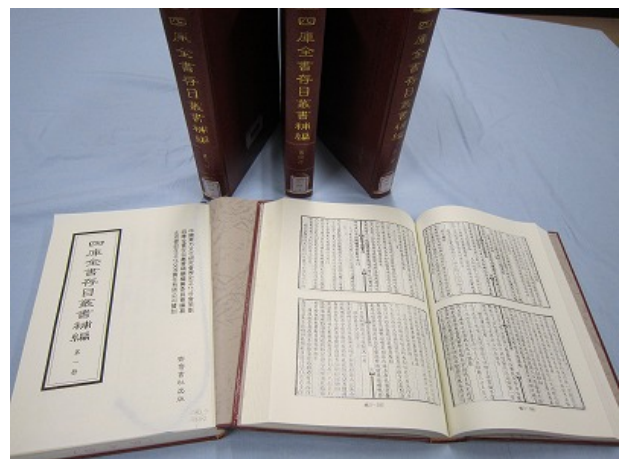
この文淵閣四庫全書本も、ついに 2000 年、迪志文化出版有限公司から電子版が出た。若干、入力・校正ミスは認められるが、中国学 (中国文化の影響を受けた日本学) を研究・調査する学生・教員にとっては多大の朗報である。検索方法の 1 つ、全文検索は 3,400 余種の資料を瞬時に検索できる。ただし四庫全書本には、文字の改竄、文章の削除、抄写の誤り、版本の粗悪さ等の欠陥もあるので、要注意である。それはともかく、膨大な資料中から瞬時に研究資料を集め、典拠・用例を調査できる利便性は絶大であり、これを卒論作成に有効に活用したゼミ生も出ている。

『四庫全書存目叢書補編』の存目とは、四庫全書中に収録された著録本に対して、重要度が劣るとして『四庫全書総目提要』中に解題のみが見える存目書を指す。1995~97 年、まず『四庫全書存目叢書』(全 1,200 冊、4,508 種、斉魯書舎) が、続いて 2001 年、『四庫全書存目叢書補編』(全 100 冊、219 種) が刊行された。この 2 種には多くの稀観書が含まれている。前者は未所蔵であるが、後者だけでもかなり有用である。ただしこれを利用するためには、個々の書籍が OPAC で検索できる必要がある。その実現を強く望みたい。

(うえき ひさゆき)



文淵閣四庫全書電子版



四庫全書存目叢書補編